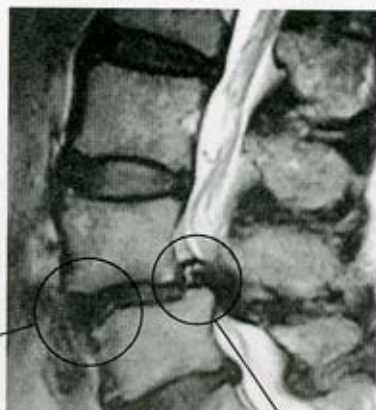


【腰椎変性すべり症】



腰椎のずれ
(すべり)

脊柱管を圧迫している

● 女性ホルモンの低下が引き金に

腰椎変性すべり症の原因は、はっきりしていません。女性ホルモン（エストロゲン）の低下が関係していることは確かなのですが、では、なぜエストロゲンが低下すると腰椎が変性してずれるのか、ということとはわかっていないのです。

腰椎変性すべり症はエストロゲンの低下によって起こるので、50歳以降の女性に多くみられます。閉経前後に、腰痛や脚のしびれがあらわれ始めたら、この病気を疑っていいでしょう。

50歳以降の女性に多い

「腰椎変性すべり症」

● 「腰椎変性すべり症」の8割は女性

「すべり症」という言葉をご存知でしょうか。正式には「腰椎すべり症」といい、坐骨神経痛のおもな原因である、腰部脊柱管狭窄症を招く病気です。

すべり症には「腰椎分離すべり症」、「腰椎変性すべり症」があります。

腰椎分離すべり症は、上下の腰椎をつないでいる部分が離れてしまったことで不安定になった腰椎が、前のほう（お腹側）にずれて起こるもの。腰椎変性すべり症は、腰椎が分離していなくても、椎間板や椎間関節が変化し、それにもなると腰椎の安定性が失われて、前にずれ（すべり）があらわれるものです。

女性の坐骨神経痛の原因として多くみられるのは、腰椎変性すべり症で、この病気の8割は女性です。